

Press Release

報道関係者各位

2026年9月7日

株式会社孝栄産業

【大阪府初導入】警備業界が直面する2大課題の解消目指す”AI 警備システム”

ヒューマンエラー防止で安全性強化&熱中症対策・省人化による人手不足解消

実際の工事現場で”AI 警備システム”が稼働する様子を取材いただけます。

稼働日：2026年9月16日～2026年9月18日 9:00～17:00

稼働場所：四條畷市西中野1丁目7-10付近での施工現場

株式会社孝栄産業（本社：大阪府四條畷市、代表：原尾 孝一）は、各行政機関及び警察署等と協議を重ね、警備員に代わり交通誘導を行う AI 警備システム「KB-eye（ケービーアイ）」を大阪府内で初めて本格導入致します。警備業務による事故や人手不足を解消するための取り組みです。



AI 警備システム「KB-eye」

【導入背景】工事現場での事故を AI 検知により減少、車や歩行者の安全を確保

先ごろ発生した線路内における作業員の死亡事故により、工事現場の安全性強化が注目され、ヒューマンエラー及び人材不足への対策が喫緊の課題となっています。

■警察庁も警備業務への AI 導入の取り組みを推進

出典元：警察庁／警備業における省力化投資促進プラン

<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/keibigyou/index.html>

当社は、工事現場における住民の転倒や運転者の追突事故、少子高齢化に伴う深刻な人材不足といった課題解消のため、各行政機関に AI 警備システムを提案してきました。

四條畷市とも協議を重ね、マンパワーに頼ってきたことによる警備業界の2大課題の解消と地域住民への安全性向上を図ることを目的とし、共に「安全性の高い、安心して暮らせるまちづくりを」という理念のもと導入を決定しました。

四條畷市は「日本一前向きな市という目標を掲げ、市民中心のまちづくりを推進している者として、スマートシティの取り組みの一環となれば」とコメントしています。

【KB-eye 開発の流れ】

KB-eye は、「交通誘導での相次ぐ現場事故と深刻な人手不足を解消したい」、世間からの評価が必ずしも高くない警備業の現状に対し「テクノロジーを導入して『最先端のスマートな職業』へと生まれ変わらせ、従事者が誇りを持って働ける業界に変えたい」という強い決意から 2017 年に開発が本格始動。「人間の見落としやミスによる事故を、AI の『絶対に疲れない確実な眼』でなくしたい」という強い思いが、開発の最大の原動力となりました。

そして 2021 年に一般社団法人「全国交通誘導 DX 推進協会」が設立され、当社は理念に賛同し 2025 年に加入しました。

【AI 警備システムについて】

工事現場で規制区間の両端に配置する警備員を AI（カメラ）に置き換えて交通誘導を行います。人の代わりにカメラが車両を検知し、自動で通行を制御します。

AI 警備システムと共に配置される警備員は、オペレーターとして緊急車両接近時や工事車両が出入りする際などのイレギュラーな誘導をリモコン操作によって遠隔操作が可能です。

夏の炎天下の現場でも、従来のように一定の場所に立ち続ける「立哨警備」ではなく、日陰や現場内に設置した本体システム付近のパラソル下で待機できます。AI 警備システムを導入することで「熱中症」対策も可能になり、労働環境の改善にも寄与します。

全国での導入実績は 27 都道府県 400 現場以上となり、システム起因での事故は現在「0 件」。公共工事における予算編成では従来と同予算で省人化と安全性向上の実現が可能となります。



従来の警備の様子



AI 警備システムを導入した工事現場

※従来の人が行っていた交通誘導を AI 警備システムが行います

■会社概要

社 名：株式会社孝栄産業 代 表 者：代表取締役 原尾 孝一

創 業：1996 年 6 月 1 日 本 社：大阪府四條畷市中野 3 丁目 5 番 10 号

ウェブサイト：<https://koei-sng.net/>

■取材に関するお問い合わせ先■

担当：原尾 TEL：080-4422-8202／E-mail：daichi.harao@koei-sng.com